

分野	科目名	単位(時間)	講師名	
専門分野Ⅱ	精神臨床看護総論	1(30)		
実務経験	■ 有 □ 無			
目的	精神看護の対象である人間を基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象とのかかわりをおとして、常にこころの健康の保持・回復の援助ができる基礎的能力を養う。			
目標	こころの働きを成長・発達と環境との相互作用の中で、影響を与える要因を理解し、各ライフサイクルにおいて、健全な精神発達と保持・増進をはかる援助を行うのに必要な基礎的能力を養う。 精神保健医療の意義と目的、対象を理解する。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 2	精神看護学の考え方	1. 精神科看護から精神看護学へ 2. 精神看護学における看護師の役割	
	3 4	精神医療の歴史と現状	1. 患者処遇をめぐる精神科医療の歴史 1) 精神科医療の歴史 2) 我が国の精神医療の現状と課題	
	5	心の健康	1. 心の健康とその考え方 2. 心の健康維持	
	6 7	心の発達と健康	1. 身体の成長と心の発達 2. 成長各期の発達 1) 胎児期 2) 乳児期 3) 幼児期 4) 学童期 5) 青年期 6) 壮年期 7) 老年期	
	8 9	人間関係と心の働き	1. 人間関係にはぐくまれる個人の心 ライフサイクル(人生周期) 2. 人間関係のなかでの心の問題 3. 心の問題への対応 4. 「からだ」と「心」および人間関係	
	10	環境と心の働き	1. 暮らしの場と心の健康 2. 教育の場と心の健康 3. 職場と心の健康 4. 地域社会と心の健康	
	11 12	危機状況と心の働き	1. 危機状況とは 2. 発達段階での危機の諸相と危機介入 3. 医療現場における危機の諸相 4. 特殊な状況における危機の諸相	
	13 14	精神保健福祉活動と法制度の変遷	1. 精神保健の概念 精神保健福祉法 2. わが国の精神保健福祉活動と法制度の変遷 3. 病院における医療・保護(精神保健福祉法と医療) 入院形態 4. 精神障害者に対する福祉施策 5. わが国の精神保健福祉活動	
	15	テスト		
	教科書 参考書	精神看護学概論・精神保健 精神障害をもつ人の看護	メヂカルフレンド社 メヂカルフレンド社	
	評価方法	筆記試験にて評価を行う		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	精神臨床看護Ⅰ	1(30)	
実務経験		■ 有 □ 無	
目的	精神看護の対象である人間を基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象とのかかわりとおして、常にこころの健康の保持・回復の援助ができる基礎的能力を養う。		
目標	こころに障害をもつ、患者とその家族への援助に必要とされる基礎的知識を学ぶ。 精神科看護において援助を必要とする対象に対して、看護者としての治療的な関係を学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	精神障害のある人への理解	1. 精神科看護の目的
	2	精神障害のある人への理解	2. 精神科看護の機能と看護師の役割 1) 日常生活行動における参加者として
	3	患者-看護師関係のなりたち コミュニケーション技術	1. 患者理解の方法 2. 患者-看護師関係のなりたち
	4	患者-看護師関係のなりたち コミュニケーション技術	3. 患者-看護師関係の発展過程 4. 治療的コミュニケーション技法や
	5	患者-看護師関係のなりたち	5. 傾聴・共感的態度・受容・信頼など、他領域の
	6	コミュニケーション技術	看護に共通となる基礎看護技術 1) 看護師として必要な基礎的技術とその態度
	7	プロセスレコード	1. 他者との対応において、自己傾向に気づき自己理解他者理解の方法を学ぶ
	8	プロセスレコード	1) 自己のものの見方やに対する先入観や偏見 2. 自己が抱く、精神障害者に対する先入観や
	9	プロセスレコード	偏見の存在に気づく ※ロールプレイングを行い、意図的コミュニケーションの活用をし、コミュニケーションの変化を実際に体験
	10	プロセスレコード	※オーランドの理論を基に、プロセスレコードを活用
	11	リエゾンコンサルテーション	1. 精神医学・看護におけるコンサルテーション リエゾン活動の発展の歴史
	12	リエゾンコンサルテーション	2. リエゾン精神医学 3. リエゾン精神看護の目標
	13	リエゾンコンサルテーション	4. 人のこころを理解するために
	14	看護師のストレスマネジメント	1. 看護師のメンタルヘルス 2. 看護師のストレスとストレス反応
15	テスト		
教科書 参考書	精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 精神看護学 医歯薬出版株式会社 田中美恵子 編著 イラストで見る診る見る精神看護 医学評論社 精神看護技術 メヂカルフレンド社		
評価方法	筆記試験にて評価を行う		

分野	科目名	単位(時間)	講師名	
専門分野Ⅱ	精神臨床看護Ⅱ	2(45)		
実務経験		■ 有 □ 無		
目的	精神看護の対象である人間を基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象とのかかわりとおして、常にこころの健康の保持・回復の援助ができる基礎的能力を養う。			
目標	精神看護の対象である人間を基盤に、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象とのかかわりとおして、常に心の健康の保持・増進・回復の援助ができる基礎的能力を養う。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	生活の場と精神の健康問題	1. 社会の動きと生活の変化、家族関係、また職場における健康問題の把握	
	2	日常生活行動と精神の問題	1. 睡眠障害・食生活・清潔など日常生活における、精神の健康門だウイへの対応、現れ方 1) それに対する看護の実際など	
	3	問題状況の把握と看護	1. 不安状態、脅迫行為、拒否、攻撃・自傷行為 1) それぞれの状況の現れ方 2) それらに対する看護を理解する	
	4	主な精神科治療と看護	1. 疾患の枠組み	
	5		1) 症状と、対象の援助の必要性 *小テストを取り入れながら行う	
	6	精神保健医療福祉サービスの実際	1. 急性期対応	
	7	精神保健医療福祉サービスの実際	2. 長期入院者のケアと病棟管理	
	8	主な精神科治療と看護	3. 部分入院	
	9		4. 精神科クリニック	
	10	精神保健医療福祉サービスの実際	1. 精神療法と看護 2. 薬物療法と看護 3. 活動療法と看護	
	11	精神保健看護における課題と展望	1. 地域におけるケア 2. 精神保健福祉における連携	
	12	小児期における精神障害	1. 患者の権利擁護と看護職の責務 2. 精神保健医療福祉チームと看護の質 3. 看護実践の改善のための方法※小テストをとりいれながら行う	
	13	地域におけるケア	1. 児童期に情動障害がみられるおもな障害 1) チック知的障害/自閉症などについての看護	
	14	精神保健コンサルテーション	1. 精神障害者に対する地域ケア 1) 地域の人や場を活用して暮らしを継続する方法	
		精神保健医療における連携	1. 地域におけるコンサルテーションの必要性 1) 精神保健の視点からのコンサルテーション	
	15	精神保健医療福祉チームと看護の質の構造 看護実践の改善のための方法	1. 患者中心のチーム医療 1) 専門職の自律性 2) 情報の共有について	
	16	事例学習	1. 看護師の役割の拡大に伴う新たな連携	
	17		2. 看護の専門性の確立	
	18		1. 実践の担い手の成長を促進する	
	19		1) 実践的研究の留意点	
	20		事例より看護過程を展開し、精神科の看護の特徴を学ぶ	
	21			
	22			
23	テスト			
教科書 参考書	精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社			
評価方法	筆記試験にて評価を行う			

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	老年臨床看護総論	1(30)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	老年の特徴を理解し、老年期における疾病の予防、健康の保持増進のための援助のあり方を学ぶ。		
目標	加齢に伴う身体的心理的变化について理解する。 エイジングの多様性に着眼し、個々の老年者のもつパワーを洞察する視点について理解する。 老年者を取り巻く保健医療福祉サービスの構成とその特徴に対する理解を深める。		
授業内容	回	項目	内容
	1	老年看護の概念	1. 老年看護学の変遷と社会史 ※高齢者についての見方、印象などについてグループでバズセッションさせる。
	2	老年看護の概念	2. ライフサイクルと老年期 3. 老年期の発達課題
	3	高齢社会の統計的特徴	1. 人口学的指標からみた老年期の特徴 2. 健康指標、経済的指標からみた老年期の特徴
	4	加齢に伴う変化	1. 加齢に伴う身体的変化 2. 加齢に伴う心理的变化
	5	加齢に伴う変化	3. 老年期の発達課題加齢に伴う社会文化的変化 4. 加齢に伴う変化と健康上の問題
	6	高齢者の理解	1. 「若い」を生きることへの理解
	7	高齢者の理解	※グループにわかれて街角アンケートを実施し、高齢者の生の声から高齢者の背景を知る。 グループワーク後発表会実施
	8	高齢者の理解	
	9	高齢者の理解	
	10	高齢者の理解	2. 高齢者疑似体験
	11	高齢者の理解	※「若い太郎」を使い、高齢者の疑似体験を行う。
	12	高齢者と倫理	1. 高齢者差別 2. 高齢者虐待 3. 成年後見制度 ※講義後、学生各自で最新の情報を調べさせ、レポート提出
	13	老年看護の役割・機能	1. 老年看護の独自性 2. 老年看護の目標 3. 老年看護の原則
	14	高齢社会の保健・医療・福祉	1. 老年保健・医療・福祉の動向 2. 高齢者の保健活動 3. 高齢者支援システム
	15		
16	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害		
評価方法	筆記試験(80点)とレポート提出(20点)の内容にて評価を行う		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	老年臨床看護Ⅰ	1(30)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	老年看護援助の基本と身体的・精神的変化と生活リズムの回復に焦点をあてたアセスメントとケアの技法について学ぶ。		
目標	高齢者の生活リズムを回復するためのアセスメントの進め方を学ぶ。 高齢者の生活リズムを回復するための具体的なケアの実践方法について学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	老年期における健康障害と看護	1. 身体的変化と生活リズムの回復のためのアセスメントと援助
	2	老年期における健康障害と看護	1) 食生活と摂食障害のアセスメントと援助 2) 排泄と排泄パターンの変調のアセスメントと援助 3) 運動・休息・睡眠の変調のアセスメントと援助 4) 清潔におけるアセスメントと援助
	3	老年期における健康障害と看護	2. 自立生活拡大のためのアセスメントと援助
	4	老年期における健康障害と看護	1) 日常生活動作能力のアセスメントと援助
	5	老年期における健康障害と看護	2) 転倒予防のアセスメントと援助
	6	老年期における健康障害と看護	3. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助
	7	老年期における健康障害と看護	1) 精神活動に関する徴候(抑鬱、せん妄)
	8	老年期における健康障害と看護	2) 感覚機能に関する徴候(痛み、搔痒感、視覚の変調、難聴)
	9	老年期における健康障害と看護	3) 循環に関する徴候(脱水、冷え、褥瘡)
			4. 治療を受ける高齢者の看護
	10	老年期における健康障害と看護	1) 外科的治療 2) 薬物療法
	11	高齢者援助技術	1. 高齢者とのコミュニケーション技術 2. 食事の援助
	12	高齢者援助技術	1) 食事動作が困難な高齢者への援助 2) 嚥下困難な高齢者への援助
	13	高齢者援助技術	3. 排泄の援助 1) 下肢の拘縮がある高齢者への援助
	14	高齢者援助技術	※グループに分かれ、 患者設定を決定し、その患者に対しての食事介助、 おむつ交換の援助計画を立案し、実施・評価する。 その際、高齢者とのコミュニケーションのとり方にも より実践にいかせる様に具体的な声かけを考えさせる。
15			
16	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
評価方法	筆記試験(60点)、技術試験(40点)にて評価する		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	老年臨床看護Ⅱ	2(45)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	老年期にある対象の特徴をふまえて、老年期に罹患しやすい疾病の看護について学ぶ。		
目標	老年期に罹患しやすい疾病の特徴をとらえ、高齢者の看護について理解できる。 身体可動性の障害をどのような視点からとらえ、援助を行うのかについて学ぶ。 コミュニケーション障害をもつ高齢者に対するアセスメント、支援の技法について学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	高齢者の疾病の特徴	1. 高齢者の疾病の特徴
	2		2. 主な疾患 1) 認知症、うつ病 2) 呼吸器疾患、循環器疾患、脳血管障害、骨粗鬆症、骨折 3) 老人性掻痒症、白内障、難聴など
	3	認知症高齢者の看護	1. 認知症高齢者のアセスメントと援助 1) 認知症とは
	4	認知症高齢者の看護	2) 認知症高齢者のアセスメント
	5	認知症高齢者の看護	3) 認知症高齢者の症状と看護 4) 認知症高齢者と家族のサポート
	6	寝たきり状態にある高齢者の看護	1. 寝たきり状態にある高齢者のアセスメントと援助 1) 合併症の予防 2) 寝たきり高齢者の家族への援助
	7	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	1. 身体可動性の障害を持つ高齢者の看護 1) 身体可動性障害のアセスメントと看護の視点 2) 身体可動性の回復に対するプログラム
	8	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	
	9	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	2. 失語・構音障害のある高齢者の看護 1) 失語症をもつ高齢者とのコミュニケーション 2) 構音障害をもつ高齢者とのコミュニケーション
	10	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	
	11	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	1. 認知症高齢者のAさんの看護展開 ※一連の看護過程の展開を個人で提出 計画まで立案し、後の演習で実施する
	12	身体可動性障害がある高齢者の援助技術	
	13	認知症高齢者の事例展開	
	14	認知症高齢者の事例展開	
	15	認知症高齢者の事例展開	
	16	認知症高齢者の事例展開	
	17	認知症高齢者の事例展開	
	18	認知症高齢者の援助技術	1. Aさんの事例展開にて立案したケアを実施・評価する 援助実施の際はできるだけリアルなコミュニケーション 場面をつくり、実践に生かせるよう工夫する
	19	認知症高齢者の援助技術	
	20	認知症高齢者の援助技術	
	21	認知症高齢者の援助技術	
	22	老年看護学を学び振り返る	1. 授業・演習の場面を振り返り統合する ※グループワークをおし学びを振り返り、共有する
	23		
24	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護学の実践		
評価方法	筆記試験(70点)と事例展開提出(30点)にて評価する		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護総論	1(30)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	青年期から向老期へと至る成人期は、身体的な変化とともに、様々な社会的役割を担い、多くのストレスに曝される時期である。ライフサイクルの観点でも、結婚・出産など多くの転機に立ち、育児や介護など家庭での役割も増大する年代である。このような時期にある人の特徴を身体・心理・社会的側面から捉え、成人が抱える健康問題を学習し、成人期にある対象を看護するうえで必要な概念・理論を学ぶ。		
目標	成人各期の特徴を理解し、成人期における疾病の予防、健康の保持増進のための援助のあり方を学ぶ。		
授 業 内 容	回	項 目	内 容
	1	成人と生活	1)対象の理解 ①大人であること ②生涯発達の特徴 ③各発達段階の特徴 2)働いて生活を営むこと
	2	生活と健康	1)大人の生活からとらえる健康 ①生と死の動向 ②受療状況 ③生活習慣病 ④自殺・職業性疾患・作業関連疾患 ⑤心の病 2)生活と健康をまもりはぐくむシステム
	3	成人への看護アプローチの基本	1)生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 2)人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 3)意思決定支援 4)家族支援
	4	ヘルスプロモーションと看護	1)ヘルスプロモーションと看護 ①ヘルスプロモーションとは ②個人の主体的な健康づくり ③健康増進のための健康づくり 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
	5	健康をおびやかす要因と看護	1)健康バランスの構成要素 2)健康バランスに影響を及ぼす要因 3)生活行動がもたらす健康問題とその予防
	6	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	1)健康の急激な破綻 2)急激な健康破綻をきたした人の看護 3)救急医療を必要とする人々
	7	障害がある人の生活とリハビリテーション	1)障害がある人とリハビリテーション 2)障害がある人とその生活を支援する看護 ①障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 ②看護の実際
	8	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	1)慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 2)慢性病患者のたえまない取り組み—セルフケア 2)慢性病との共存の過程を支える看護
	9	人生の最期のときを支える看護	1)終末期医療の現状 2)終末期医療における概念 3)人生の最期のときを過ごしている人の理解 4)人生の最期のときを支える看護
	10	学習者である患者への看護技術	1)エンパワーメント・エデュケーション 2)セルフマネジメントを推進する看護技術 3)患者の認知にはたらきかける看護技術
	11	治療・処置を受ける対象者への看護	1)化学療法を受ける対象者への看護 2)放射線療法を受ける対象者への看護
	12		1)主体的治療・療養行動促進の看護技術 2)治療に伴う苦痛軽減の看護技術 3)安全・安楽・安心を援助する看護技術 6)身体像(ボディイメージ)の変化に対する看護技術
	13	治療過程にある患者への看護技術	1)症状マネジメントと看護 2)症状マネジメントと看護実践モデル 3)症状マネジメントモデルから導かれた看護のアプローチ
	14		1)退院支援とはどのような活動か 2)退院支援が必要とされる理由 3)退院支援の具体的方法
	15	症状マネジメントにおける看護技術	1)退院支援とはどのような活動か 2)退院支援が必要とされる理由 3)退院支援の具体的方法
	退院支援の看護技術	1)がんヘルスリテラシーの促進 2)新たな治療法・医療処置の開発・普及	
	がんとの共生を促す看護技術 新たな治療法、先端医療と看護	1)がんヘルスリテラシーの促進 2)新たな治療法・医療処置の開発・普及	
	テスト		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学① 成人看護学総論, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学④ 臨床看護学総論, 医学書院		
参考図書	国民衛生の動向 Vol.64 No9 2017/2018, 厚生労働統計協会		
評価方法	筆記試験(100点)にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護Ⅰ	2(45)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実践を学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	(循環器) 症状の観察と看護	1. 胸痛 2. 動悸
	2	症状の観察と看護	3. 浮腫 4. 不整脈
	3	検査・治療時の看護	1. 心臓カテーテル
	4	検査・治療時の看護	2. 心電図・心エコー
	5	循環器に関連する症状を示す 対象者の看護	1. 循環障害に関連する症状のメカニズム
	6		2. 循環障害に関連する看護上のニーズ・アセスメント
7	3. 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助		
授業内容	8	(呼吸器) 症状の観察と看護	1. 喀痰・血痰・咯血 2. 咳・喘鳴
	9	症状の観察と看護	3. 呼吸困難 4. チアノーゼ
	10	検査・治療時の看護	1. 吸入・酸素療法
	11	検査・治療時の看護	2. 胸腔ドレナージ
	12	検査・治療時の看護	3. 呼吸理学療法
	13	呼吸器に関連する症状を示す 対象者の看護	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム
	14		2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ・アセスメント 3. 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助
授業内容	15	(消化器) 症状の観察と看護	1. 嚥下困難 2. 腹痛・便秘
	16	症状の観察と看護	3. 吐血・下血
	17	検査・治療時の看護	1. 内視鏡検査・生検
	18	検査・治療時の看護	2. 食事療法 3. 薬物療法
	19	消化器に関連する症状を示す 対象者の看護	1. 栄養障害に関連する症状のメカニズム
	20		2. 栄養障害に関連する看護上のニーズ・アセスメント
	21		3. 栄養障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助
教科書	系統看護学講座専門7 循環器 医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院		
参考書	系統看護学講座専門6 呼吸器 医学書院 系統看護学講座専門9 消化器 医学書院 *講義にパワーポイントを使用		
評価方法	筆記試験にて評価を行う(各100点で合計点を3等分した結果を点数とする)		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護Ⅱ	2(45)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実践を学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	(運動器) 症状の観察と看護	1. 疼痛 2. 形態の異常
	2	症状の観察と看護	3. 関節運動の異常 4. 神経の障害
	3	検査・治療時の看護	1. 保存療法(ギプス・牽引)
	4	検査・治療時の看護	2. 理学療法・作業療法、義肢・装具
	5	活動・休息に関連する症状を示す対象者の看護	1. 身体的不活動・休息に関連する症状のメカニズム
	6		2. 活動と休息障害に関連する看護上のニーズ・アセスメント
7	3. 活動と休息障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助		
授業内容	8	(脳神経) 症状の観察と看護	1. 意識障害 2. 運動機能障害・言語障害
	9	症状の観察と看護	3. 頭蓋内圧亢進症状
	10	検査・治療時の看護	1. 脳脊髄液検査・脳血管撮影
	11	検査・治療時の看護	2. 理学療法・作業療法・言語療法
	12	認知や知覚に関連する症状を示す対象者の看護	1. 認知や知覚に関連する症状のメカニズム
	13		2. 認知や知覚に関連する看護上のニーズ・アセスメント
	14		3. 認知・感覚機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助
授業内容	15	(内分泌・代謝) 症状の観察と看護	1. 糖尿病とは 2. 糖尿病の分類・症状・合併症
	16	症状の観察と看護	3. 生活指導について
	17	検査・治療時の看護	1. 食事療法 2. 運動療法 3. 薬物療法
	18	代謝障害に関連する症状を示す対象者の看護	1. 認知や知覚に関連する症状のメカニズム
	19		2. 認知や知覚に関連する看護上のニーズ・アセスメント
	20		3. 認知・感覚機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助
21			
教科書 参考書	系統看護学講座専門14 運動器 医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門11 脳神経 医学書院 系統看護学講座専門10 内分泌・代謝 医学書院 *講義にパワーポイントを使用		
評価方法	筆記試験にて評価を行う(各100点で合計点を3等分した結果を点数とする)		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護Ⅲ	1(30)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実際を学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	(血液・造血) 症状の観察と看護	1. 貧血 2. 出血傾向
	2	検査・治療時の看護	1. 輸血・ 2. クリーンルーム使用時の看護
	3	疾患を持つ患者の看護	1. 症状別看護 グループワーク
	4	疾患を持つ患者の看護	2. 症状別看護 グループワーク
5	疾患を持つ患者の看護	3. 症状別看護 発表	
授業内容	6	(腎・泌尿) 症状の観察と看護	1. 排尿障害・血尿 2. 体重増加・尿毒症
	7	症状の観察と看護	3. 感染
	8	検査・治療時の看護	1. 血液透析・腹膜透析・腎移植
	9	排泄に関連する症状を示す 対象者の看護	1. 排泄機能障害に関連する症状のメカニズム
	10		2. 排泄機能障害に関連する看護上のニーズ・アセスメント 3. 排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助
授業内容	11	(女性生殖) 症状の観察と看護	1. 出血・帯下 2. 疼痛
	12	症状の観察と看護	3. 掻痒感
	13	症状の観察と看護	4. 自律神経症状
	14	検査・治療時の看護	1. 外来・病棟における看護
	15	検査・治療時の看護	2. 外診・内診時の看護 3. ホルモン療法
	16	テスト	
教科書 参考書	系統看護学講座専門8 血液・造血 医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門12 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座専門13 女性生殖器 医学書院		
評価方法	筆記試験にて評価を行う(各100点で合計点を3等分した結果を点数とする)		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護学Ⅳ	1(30)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護の実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	人間の生と死について考えることができる 緩和ケアにおける倫理的課題について理解する。 全人的苦痛、家族援助について学び、その看護を理解する。 死を迎えた対象の看護について学ぶ。 自ら死生観について考えることができる。		
授業内容	回	項目	内 容
	1	人生の最期を支える看護	1. 終末期医療の現状 ・延命医療から緩和ケアへ ・ホスピス、緩和ケア病棟、在宅ターミナルケア 2. 終末期医療における3つの概念 3. 人生と最期の時を過ごしている人の理解 ・人間にとっての死 ・全人的苦痛 ・人ともに生きる事
	2	緩和ケアの歴史と現状	1. 緩和ケアの歴史 2. 緩和ケアの理念
	3	緩和ケアの歴史と現状	3. 我が国での緩和ケアの現状 4. 緩和ケアにおける看護師の教育 5. 緩和ケアの展望
	4	緩和ケアにおける倫理的課題	1. 倫理、生命倫理。看護倫理
	5	緩和ケアにおける倫理的課題	2. 医療におけるコミュニケーション ・患者－医療従事者との関係 ・インフォームド・コンセント
	6	緩和ケアにおける倫理的課題	3. 緩和ケアをめぐる倫理問題
	7	緩和ケアにおける倫理的課題	・SOLからQOLへ ・「患者の自己決定の自由」の実現
	8	緩和ケアにおける看護介入	1. アロマセラピーの実施 2. 家族、遺族に対するケア
	9	緩和ケアにおける看護介入	3. スピリチュアルケア
	10	緩和ケアにおける看護介入	4. 身体的、精神的、社会的ケア
	11～14	人生の最期を支える看護	1. 人生の最期の時を支える看護 ・看護の目的 ・援助者の態度 ・人生の最期の時を支える看護師の役割、機能
	15		
16	テスト		
教科書	系統看護学講座 専門5 成人看護学総論	医学書院	
参考書	系統看護学講座 別巻10 緩和ケア	医学書院	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	成人臨床看護学Ⅴ	1(30)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	手術療法や麻酔について理解すると共に、周手術期にある対象を総合的に理解し、適応促進に向けた看護の方法を学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1	外科看護の基礎	1. 手術侵襲と生体の反応 ・手術侵襲の意味 ・サイトカインによる生体調整機構 ・侵襲に対する生体反応
	2	外科看護の基礎	2. 炎症 ・炎症細胞と化学伝達物質 ・急性炎症と慢性炎症 ・全身の炎症反応 ・炎症の治療
	3	外科看護の基礎	3. 腫瘍 ・腫瘍の定義、分類と発生原因 ・腫瘍の発育と進展様式 ・腫瘍の診断 ・腫瘍の治療
	4	外科看護の基礎	4. 麻酔法 ・麻酔とは ・麻酔の種類 ・全身麻酔 ・局所麻酔 ・手術前の管理 ・手術中の管理 ・手術後の管理
	5	外科看護の基礎	5. 酸素療法と機械的人工換気 ・酸素療法 ・機械的人工換気
	6	外科看護の基礎	6. 体液、栄養管理 ・体液管理と輸液 ・栄養管理
	7	外科看護の基礎	7. 輸血療法 ・輸血実施手順と過誤防止策 ・輸血医療とは
			8. 臓器移植 ・移植の分類、移植の臨床 ・移植免疫
	9	外科看護の基礎	9. 感染管理 ・外科的感染対策 ・院内感染制御
	8	テスト	
	9	周手術期看護の概論	1. 手術を受ける患者の状況 2. チーム医療と看護師の役割 3. インフォームドコンセント 4. 周手術期における安全管理
	10	救急看護の基礎	1. 救急処置法の実際 ・救急処置の範囲と対象 ・救急措置法の実際
	11	手術前の患者の看護	1. 手術前の患者のアセスメントと看護目標 2. 手術前の患者の看護
	12	手術中の患者の看護	1. 手術中の看護の要点 2. 手術室における看護の展開 3. 手術室の環境管理
	13	手術後の患者の看護	1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症予防と発症時の対応
14	手術後の患者の看護	3. 創傷治癒の促進 4. 自己管理に向けた援助	
15	手術を受ける高齢者・小児の看護	1. 高齢者の周手術期の看護 2. 小児の周手術期の看護	
	重症集中治療を受ける患者の看護	1. 重症集中治療・看護の概念と役割 2. 重症集中治療における看護の実際 3. ICUの管理・運営	
16	外科看護をとりまく法的環境	1. 法律上の基礎知識 2. 医療事故と看護業務 3. 看護と患者中心の医療 4. 死の医学	
	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 臨床外科看護各論		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。(疾患100点、看護100点を二分とし評価する)		

分野	科目名	単位(時間)	講師名	
専門分野Ⅱ	小児臨床看護総論	1(30)		
実務経験	■ 有 □ 無			
目的	小児の特徴を理解し、小児の健全な保育・小児期における疾病の予防・健康の保持・増進のための援助のあり方を学ぶ。			
目標	小児の特徴を知り、子どもの健康のとらえ方と看護の役割について理解する。 小児看護における成長・発達の基本的な特徴について理解する。 小児保健の動向と対策について理解する。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	子供の理解	1. 子どもとは ※グループワークにて自分たちの子ども観をまとめる 2. 子ども観の変遷	
	2	小児看護とは	1. 小児看護の対象 1) 子どもと家族 2) 子どもの人口構造 2. 小児看護の目標	
	3	小児看護とは	3. 小児看護の変遷 4. 小児医療の変遷 5. 小児をめぐる法律と政策	
	4	小児看護における倫理	1. 子どもの倫理 ※事例に基づき考察する	
	5	小児看護の今後の課題	1. 子どもの権利 2. 子どもの人権 3. 小児医療の現場で起こりやすい問題 4. 小児看護の役割	
	6	成長・発達の基本	1. 成長・発達とは 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価	
	7	小児の栄養	1. 小児の栄養の意義 2. 母乳栄養 3. 離乳食 4. 乳幼児の栄養 5. 学童期・思春期の栄養	
	8 ・ 9	成長・発達の特徴と看護	1. 新生児期 1) 成長・発達の特徴 2) 新生児の世話 2. 乳児期 1) 成長・発達の特徴 2) 乳幼児の世話	
	10 ・ 11	成長・発達の特徴と看護	3. 幼児期 1) 成長・発達の特徴 2) 愛着形成と分離不安 3) 子どもの遊び 4) 幼児期の世話 5) 健康問題	
	12	成長・発達の特徴と看護	4. 学童期・思春期 1) 成長・発達の特徴 2) 健康問題 3) 学童期・思春期の関わり	
	13 ・ 14	小児保健お動向と対策	1. 小児と家族を取り巻く社会 1) 小児虐待・他 ※事例に基づき考察する 2) 予防接種	
	15		※予防接種計画を立案する	
	16	テスト		
	教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 メディカ出版		
	評価方法	筆記試験(100点)にて評価する		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	小児臨床看護Ⅰ	1(30)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	病児とその家族について理解し、健全な成長・発達を促すためのアセスメントと援助について学ぶ。 小児における検査・処置についての概要と必要な看護について学ぶ。		
目標	疾病や傷害に対して子どもと家族が示す反応について、健康問題や発達段階から理解する。 健康問題を持つ小児と家族の看護について、経過別・症状別の特徴をふまえ理解する。 健康障害をもつ小児の生活と家族の看護について理解する。		
授業内容	回	項目	内容
	1	病児と家族の理解	1. 病気をもつ小児の反応と影響 1) 病気にたいする子どもの理解 2) 病気が子どもの生活・成長発達に及ぼす影響
	2	病児と家族の理解	2. 病児をもつ家族の理解 1) 病気にたいする子どもの理解子どもの病気に対する親の理解と受容 2) 子どもの病気が家族に及ぼす影響
	3	小児の健康障害と看護	1. 小児における主な症状を示す小児の看護 1) 痛み
	4	小児の健康障害と看護	2) 発熱
	5	小児の健康障害と看護	3) 呼吸困難
	6	小児の健康障害と看護	4) けいれん
	7	小児の健康障害と看護	5) 嘔吐 6) 下痢 7) 脱水 8) 浮腫 9) 意識障害 ※各グループ毎にグループワークを実施しまとめ・発表をさせる
	8	小児の健康障害と看護	2. 小児における経過別看護 1) 急性期の小児の特徴と看護 2) 慢性疾患の小児の特徴とその看護 3) 周手術期の小児の特徴と看護
	9	小児の健康障害と看護	3) 予後不良(ターミナル期・死)にある小児と死後の看護 4) 低出生体重児と家族の看護
	10	小児看護に必要な看護技術	1. 小児における検査・処置 1) 身体計測
	11	小児看護に必要な看護技術	2) バイタルサイン測定 3) 予薬・輸液の管理 4) 採血 5) 採尿・蓄尿 6) 抑制 ※技術に関しては演習室において実施する
	12		
	13		
	14		
	15		
16	テスト		
教科書 参考書	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院		
評価方法	筆記試験にて評価をします		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	小児臨床看護Ⅱ	2(45)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	小児が健康を障害されていることの意味と、その援助方法について学ぶ。 小児に特徴的な疾患をとりあげ、事例の展開について学ぶ。		
目標	小児における系統別疾患の看護について理解する。 事例展開をとおして、小児における特徴的な疾患の看護について、小児の成長発達の特徴をふまえた看護を理解する。		
授業内容	回	項目	内容
	1	病児と家族の理解	1. 病気や入院が子どもの心理面に与える影響、受容・適応にむけての看護
	2	病児と家族の理解	2. 小児の病気や入院に対する家族の反応と看護 ※ビデオ鑑賞含む
	3	小児の入院生活と看護	1. 入院名の子どもへの生活援助
	4	小児の入院生活と看護	(睡眠、食事、清潔・衣服、遊び、学習)
	5	小児の入院生活と看護	※入院中の患児に対しどのように遊びを取り入れればよいか
	6	小児の入院生活と看護	ということについてグループで学習し発表する
	7	小児の健康障害と看護	1. 健康段階に応じた看護
	8	小児の健康障害と看護	1) 急性期にある患児の看護; 症状の観察・苦痛の緩和
	9	小児の健康障害と看護	2) 慢性期にある感じの看護; 疾患の受容過程、自己管理
	10	小児の健康障害と看護	3) 障害をもった児の看護; 障害受容への援助
	11	小児の健康障害と看護	4) 終末期にある患児の看護; 苦痛に対する看護、小児の生命・死についての捉え方、死にゆく子どもの家族とその反応
	12	小児の健康障害と看護	2. 疾患の理解と看護
	13	事例展開	1) 消化器疾患; 肥厚性幽門狭窄症、腸重積、鎖肛
	14	事例展開	2) 呼吸器疾患; 気管支喘息
	15	事例展開	3) 循環器疾患; 川崎病、
	16	事例展開	4) 腎・泌尿器疾患; ネフローゼ症候群
	17	事例展開	5) 脳・神経系; けいれん
	18	事例展開	6) アレルギー; アトピー性皮膚炎
	19	事例展開	7) 内分泌; 糖尿病
	20	事例展開	1. ダウン症候群に罹患した小児の看護; Aちゃんの事例
	21	事例展開	2. アトピー性皮膚炎に罹患した小児の看護; Bちゃんの事例
	22	ビデオ鑑賞	※前回の事例展開学習をグループにわけて実施する。 その内容についてまとめと発表を行う
	23		3. 肺炎に罹患した小児と家族の事例展開
24	テスト	※個人で事例展開を行い提出する 4. 個人で提出した事例展開についてのポイントの説明	
24		1. 小児臨床看護のまとめ 2. 「わかってよ、子どもの気持ち、子どもとのかかわりを考える」 ビデオ鑑賞 レポート作成	
教科書 参考書	小児臨床看護各論 医学書院		
評価方法	筆記試験		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	母性臨床看護総論	1(30)	
実務経験	■ 有 □ 無		
目的	母性の概念と人の種族保存の意義を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ。		
目標	人間の性と生殖の意義と生命倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。 女性の各ライフステージの特徴と対象の健康の維持・強化についての看護を理解する。		
授業内容	回	項目	内容
	1	母性看護の基盤となる概念	1. 母性のイメージについてグループワーク
	2	母性看護の基盤となる概念	2. 母性とは ・親になることと母性 ・母性をめぐる定義 ・母性看護における母性
	3	母性看護の基盤となる概念	3. 母性の身体的、心理、社会的特性 母子関係(愛着・母子相互作用と母子関係形成)
	4	母性看護の基盤となる概念	4. 家族発達 ・家族の定義 ・家族の機能 ・家族の発達課題 ・現在の家族の変化と問題
	5	母性看護の基盤となる概念	5. セクシュアリティ ・人間の性とは ・セクシュアリティの発達と課題
	6	母性看護の基盤となる概念	6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ヘルスプロモーション
	7 ・ 8	母性看護のあり方	7. 母性看護における倫理 ・生命倫理と看護倫理 ・看護における倫理的意思決定 ・事例(グループワーク、発表) ・ビデオ学習とレポート提出 8. 母性看護における安全と事故防止
	9	母性看護の現状	9. 近代社会と母性看護 ・母子保健の改正、世界人口開発会議 ・健やか親子21、少子化問題
	10	母性看護の現状	10. 母子保健統計からみた動向、出生に関する動向、 人工妊娠中絶の動向
	11	母性看護の現状	11. 母性看護に関する組織と法律
	12	女性のライフステージと各期の看護	12. 思春期の身体的、心理的・社会的特徴 健康問題と看護
	13		13. 成熟期の身体的、心理・社会的特徴 健康問題と看護 家族計画、受胎調節
	14		14. 更年期の身体的、心理・社会的特徴 健康問題と看護
	15		各期の健康問題についてグループワークで検討し、保健指導の場 面をロールプレイングで発表
	16	テスト	
教科書 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向		
評価方法	筆記試験 グループワーク発表 レポート提出で評価する		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	母性臨床看護Ⅰ	1(30)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	周産期の母子の生理的経過を学び、母子相互関係の重要性を理解する。		
目標	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的変化や経過が理解できる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の各経過が母子及び家族に及ぼす影響が理解できる。		
授業内容	回	項目	内容
	1	妊娠期の生理	1. 妊娠の生理(妊娠の成立・予定日の算出) 2. 胎児の発育と生理
	2	妊娠期の生理	(胎児の発育・生理、胎盤と羊水の生理) 3. 母体の生理的変化
	3	妊娠期の生理	4. 心理、社会的変化
	4	妊娠期の生理	5. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (妊婦検診・保健指導)
	5	妊婦の看護	1. 妊婦の保健相談 (妊娠中の食生活、排泄・清潔、衣生活、活動と休息、 勤労、性生活、マイナートラブル)
	6	妊婦の看護	2. 分娩準備教育
	7	妊婦の看護	3. 妊婦と家族の看護
	8	分娩期の生理	1. 分娩とは 2. 分娩の3要素
	9	分娩期の生理	3. 分娩の機序
	10	分娩期の生理	4. 産痛
	11	分娩期の生理	5. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント
	12	産婦の看護	1. 安全・安楽な分娩への援助 2. 産痛緩和のためのケア
	13	産婦の看護	3. 基本的ニードの充足 (水分・栄養・排泄・清潔・睡眠・休息)
	14	産婦の看護	4. 産婦と家族の看護
	15		
16	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ	*講義でビデオ・模型を使用	
評価方法	筆記試験にて評価を行う		

分野	科目名	単位(時間)	講師名
専門分野Ⅱ	母性臨床看護Ⅱ	2(45)	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目的	正常な妊婦褥婦・新生児に適した看護を理解する。		
目標	妊・産・褥婦・新生児に適切な看護活動について学び、事例を展開する。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期におけるハイリスクな状況の人の看護を知る。		
授業内容	回	項目	内容
	1	産褥期の生理	1. 産褥期の身体的変化 (退行性変化・進行性変化)
	2	産褥期の生理	2. 褥婦の心理的变化
	3	産褥期の生理	3. 家族の心理的变化
	4	産褥期の生理	4. 褥婦の健康状態のアセスメント
	5	褥婦の看護	1. 退行性変化への看護 (休息と活動、栄養、排泄、清潔)
	6	褥婦の看護	2. 進行性変化への看護 ・乳房ケア
	7		3. 心理的变化への看護
	8	褥婦の看護	4. 育児技術にかかわる看護 (授乳、児の清潔、児の健康管理)
	9		・児の清潔 ・児の健康管理 5. 褥婦と家族の看護
	10	新生児期の生理	1. 新生児とは
	11		2. 新生児の機能 (子宮外適応現象・呼吸・循環・体温・消化・吸収・ビリルビン代謝・黄疸・皮膚・反射・成熟兆候)
	12	新生児期の生理	3. 新生児の健康状態のアセスメント
	13	新生児の看護	1. 出生直後の看護
	14	新生児の看護	2. 退院までの経過観察
	15	新生児の看護	3. 身体の清潔
	16		4. 栄養
	17	ハイリスクな状況の看護	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常時の看護
	18	ハイリスクな状況の看護	2. 生活指導
	19	母性看護技術	
	20	母性看護技術	腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、分娩監視装置のつけ方、産痛緩和法、児心音の聴取、抱き方・寝かせ方、おむつのあて方、服の着脱、沐浴、授乳、排気法、新生児の諸計測、保育器の使用法、バイタルサイン測定法、乳房の手当
	21	母性看護技術	
	22	母性看護技術	
	23		
24	テスト		
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論	医学書院	*講義でビデオ・模型を使用
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論	医学書院	
	写真でわかる母性看護技術	インターメディカ	
評価方法	筆記試験にて評価を行う		